

えびの岳：動植物

えびの岳にはシカがたくさんいます。1980年代以降、人間の活動の変化や気候変動などの様々な要因により、シカは個体数を増やしてきました。今日、シカたちは木々の間が不自然なほどまっさらになるまで下草を食い尽くします。鹿に食べられるのを免れるのは、シキミ (*Illicium anisatum*) やハイノキ (*Symplocos myrtacea*) のような味の良くない植物や毒のある植物だけです。日本の他の多くの山で見られるシカの過剰繁殖は比較的近年の現象で、生態系が今後どのように適応していくのかが懸念されています。

シカほど存在感が強くはありませんが、イノシシ、テン、野ネズミもこの地域に生息しています。初夏になるとカッコウの鳴き声が聞こえ、カケスは年間を通して見られます。また、コシジロヤマドリが木々の間で餌を探している姿を見かけるかもしれません。

針葉樹、常緑樹、キノコ

えびの岳は温帯林と暖温帯林の境界域です。登山道の標高の低い部分は暖かい気候を好む針葉樹や常緑広葉樹の林を通りますが、標高の高い部分ではブナのように寒く雨量の多い気候に適した樹木が多く見られます。高くそびえる白いブナは、森が健康である印です。ブナは雨水を効率的に利用し、さらにそれを森に還元できるように進化してきました。登山道沿いの落葉樹は、春の鮮やかな新緑から秋の紅葉に変化した後、冬には白霜をまとってきらめきます。

また、降雨量が多く日陰がたくさんあるため、えびの岳はシロソウメンタケの仲間から暗闇で光るツキヨタケ (*Omphalotus japonicus*) に至るまで、キノコや他の様々な菌類を見つけるのに最適な場所です。

ノカイドウ

えびの高原には、世界中でこの場所にしか見られないノカイドウ (field crabapple, *Malus spontanea*) という植物が自生しています。春に赤とピンクの花を咲かせるノカイドウは、霧島の河川沿いの日当たりの良い地域のみで生育します。ノカイドウは国の天然記念物に指定されており、保全のために積極的な活動が行われています。